

# 特集

パーキング業界の明日 50

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人・森井博が聞く

## 自転車と駐車を切り札にして 三重県のさらなる活性化を

ゲスト 三重県知事 鈴木英敬

縁あって実現した、三重県知事・鈴木英敬氏との対談。自転車普及において三重県はまだ道半ばとのことで、私のこれまでの取り組みや最新の業界情報に対して、知事は高い関心を示してくださった。自転車、さらには自動車駐車場による地域活性化の可能性を語り合えた、有意義な1時間となった。

(収録：2014年5月15日 東京日本橋三重テラスにて)

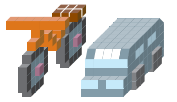


三重県知事

鈴木英敬

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

森井博



## 鈴鹿サーキットを擁するからこそ取り組むべき課題がある

**森井** まずは鈴木知事ご自身の自転車にまつわる体験や感想などから教えていただけますか。

**鈴木** 子どもの頃は皆と同じように日常的に乗っていました。優れた利便性を備えた乗り物だと実感したのは、社会人になってすぐの頃、山口県の萩市にある長州藩ゆかりの歴史的人物の旧跡を巡った時でした。幕末の歴史が好きなので、一人旅で高杉晋作や桂小五郎の生家を巡ったわけです。萩の駅前でレンタサイクルを借りて、現地の風を感じながら快適に回ることができまして、改めて「自転車って便利で効率的な移動手段だな」と再発見できたのです。

**森井** 観光地巡りでは、自転車は高い機動力を発揮しますからね。

**鈴木** 知事就任後には、以前から交流がある広島県の湯崎英彦知事と、しまなみ海道を自転車で行ったこともあります。乗ったのは台湾のGIANTのスポーツバイクだったかな。あの時は、海道のインフラがしっかり整備されていることに感

銘を受けました。名物のアイスクリーム屋さんの店頭にはきちんと自転車用のスタンドが整備されていますし、ルート案内も分かりやすく随所に表示されています。

**森井** なるほど。では続いて三重県内の自転車に関する取り組みを教えてください。

**鈴木** 最初にご紹介したいのが「ツール・ド・熊野」ですね。1999年から三重県と和歌山県南部の熊野古道の一带で開催されている国際的な自転車レースで、毎年、多くのお客様がいらっしゃいます。実は私の妻もかつては真剣に自転車レースに取り組んでいたんですよ。2005年～2007年頃、ハワイで行われているセンチュリーライドに出場していました。片山右京さんにIntermaxのロードレーサーを借りてトレーニングしたりしていましたね。

**森井** それは奇遇ですね。私の娘もセンチュリーライドにはここ2～3年出場を続けていますし、右京さんとこのページで対談したご縁で、私もIntermaxのロードレーサーを購入したんです。もともと、その自転車は私は乗りこなせないのもうばら娘が乗っているんですが、

**鈴木** そうでしたか！ それはご縁を感じます。ちなみに片山さん率いる「チーム右京」は昨年のツール・ド・熊野で優勝してしまして、今年も優勝の最右翼です。また、三重県ではオートバイも地域に溶け込んでいます。何しろ、鈴鹿市の鈴鹿サーキットで、1978年から三十数年にわたって「8時間耐久ロードレース」を開催していますからね。

**森井** そうでした。鈴鹿ではバイクのほかに自動車レース、F1の開催もありましたね。

**鈴木** 「8耐」の際には、毎年全国からバイクに乗ったファンが500名ほどロングツーリングで集結してくださるんですね。そして8耐前夜祭と銘打って「バイクであいたいパレード」というイベントを開催します。これは、集まったライダーたちが鈴鹿サーキットをご自身のバイクでパレードするお祭りなのです。

**森井** それは素晴らしいイベントです。

**鈴木** 運営には、鈴鹿市の商工会議所青年部も携わっております。私は、知事に就任する前は鈴鹿市に住んでいて商工会議所の仕事に携わりましたので、このイベントを通じて、全国のライダーの皆さんの声をお聞きする機会がありました。



昨年6月に行われたツール・ド・熊野第2ステージの様様。丸山千枚田の棚田群を選手たちが颯爽と駆け抜ける光景は、このレースのハイライトのひとつだ



我が国のモータースポーツを古くから牽引してきた鈴鹿サーキット。  
左/昨年の8時間耐久レース  
上/全国から集まったライダーによる「バイクで思い思いのパレード」

**森井** どんな声が多かったですか？

**鈴木** バイクの駐車場に関する話が印象に残っていますね。オートバイを停める場所の確保はもちろんですが、脱いだ後のライダーズジャケットをかけておけるようなロッカーもあると8耐を開催する街にふさわしいインフラになるのでは、といった内容でした。その辺が充実すれば、もっとライダーたちがたくさん集まってくるよと。

**森井** まさにそうしたニーズに答える商品が既に開発されていますよ。「BILO (バイロ)」といいまして、バイクの駐車スペースとロッカーがセットになった商品です。きっと鈴鹿8耐の際には役立つ商品になるのではないのでしょうか。まだ全国展開まではしていなかったと思うので、後日情報をお送りしますよ。

**鈴木** ありがとうございます。それは鈴鹿～三重県におけるバイク振興を後押しするアイテムになりそうです。バイクは日本の技術力を象徴する強力なアイテムのひとつですからね。海外ミッションでブラジルやタイに行った際、そのことを痛感しました。調べますとブラジルでは約96%、タイでは約94%が日本製だそうです。彼らはバイクを見れば日本を連想するわけですよ。

**森井** そうですね、HONDA、SUZUKI、KAWASAKI、YAMAHA…バイクにおける日本ブランドの知名度は、海外ではとにかく高いですからね。

**鈴木** また、ヨーロッパではバイクツーリングが大人の文化のひとつにもなっていますから、強力な日本ブランドのひとつとしてもっと積極的にPRしていく必要があると思います。

## ロンドン出張で目撃した ボリスバイクに 刺激を受けた

**森井** では、再び自転車に話を戻しまして、今度は三重県内の自転車に関する行政についてお聞かせください。

**鈴木** まず放置自転車対策については、三重県内でも人口の多い基礎自治体、桑名、四日市、津、松阪、鈴鹿、伊賀などで、それぞれ市街地に駐輪禁止区域を設定するなどして取り組みを続けています。県の管轄でいいますと、県管理道路の歩道設置率が31.6%と低いと、人や自転車の通行量が多い場所や通学路を中心に歩道整備を進めております。

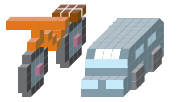
**森井** 自転車レーンについてはいかがでしょうか。

**鈴木** 県内の総延長が1,970mで、全国で

は24位(平成24年末 警察庁調べ)とほぼ中間に位置しています。観光用のレンタルサイクルは、約31万人で県内最多の人口を持つ四日市市で運用されています。

**森井** レンタサイクルに関連したところで話をさせていただきますが、4月1日付けで「一般社団法人 日本シェアサイクル協会」という団体を立ち上げまして、私はその専務理事を務めております。設立の目的のひとつが、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに、都内に約30,000台のシェアサイクルを導入することです。既存システムの好例なのが、2008年のオリンピックの時にロンドン市長のボリス・ジョンソンさんが推進した通称「ボリスバイク」です。別の名をスポンサーの銀行名を冠してパークレーシェアサイクルとも云い、自動車ばかりに依存せず、自転車を代替の移動手段にしていこうということで、市内に約8,000台を走らせました。これが大成功し、ロンドン五輪終了後も市民の足として定着しているのです。

**鈴木** 先日、仕事で14年ぶりにロンドンに行く機会がありまして、確かに走っている自転車の数が多いな、という印象を持ちました。帰国後、今日の対談に向けてシェアサイクルのことを少し勉強してボリスバイクについても知識を得まして



「なるほど、それであんなにロンドンには自転車がたくさん走っていたわけだ」と納得したんです。

**森井** そうだったんですか。

**鈴木** ボリス・ジョンソンさんは現イギリス首相のデーヴィッド・キャメロンさんと共に、高い人気を集めている政治家ですからね。彼らのように若くて人気のあるリーダーで、しかもイケメンだったりすると、シェアサイクルの普及はよりスムーズに進むのではないかと(笑)

**森井** 鈴木知事も若くてイケメンなので、ぜひ、シェアサイクルの推進をお願いしますよ。

**鈴木** いやいや、私は三枚目のほうですから(笑)。ま、とにかくボリスバイクは非常に良い仕組みだと感銘を受けた次第です。ところで日本では、シェアサイクルはいつ頃からスタートしたのですか。

**森井** 2005年くらいからといわれています。2007年には森喜朗元総理がパリのシェアサイクル「ヴェリブ」を見て、その斬新さに感銘を受けて「日本にも導入していこう」と提唱されています。

**鈴木** おそらく今年中に海外ミッションでパリに行くことになると思いますので、ヴェリブもしっかり勉強してようと思います。

## 豊富な観光資源を活用して シェアサイクル導入の 第一歩を

**森井** 森さんの提唱の後、国土交通省や全国の自治体、民間企業が動き始めて、現在ではおよそ50都市くらいでシェアサイクルが稼働しています。日本シェアサイクル協会は、東京五輪に向けた都内シェアサイクル実現もさることながら、全国で行われているシェアサイクルのさらなる整備、規模の拡大なども視野に入れておりまして、つい先日には初の総会も開きました。近い将来、三重県内でもシェアサイクルの振興に力を入れていただければありがたいです。

**鈴木** 三重県としても応援させていただきたいと思えますし、県内でできることがあれば検討させていただきたいと思えます。今の時代は、ネット、カード決済が幅広い世代に浸透してきていますから、シェアサイクルを普及させやすい環境が整っているといえますよね。

**森井** おっしゃるとおりです。ただ、日本の場合、シェアサイクル導入もさることながら、自転車走行空間の確保を考えた時に必ずネックになるのが「慣習的に自転車が歩道を走っている」という事実で

す。1970年に自転車利用者の安全を守る目的で、一時的に自転車を歩道に上げ、走行できるように法律を改正した経緯があり、そのまま崩壊的に自転車の歩道走行が定着してしまいました。2011年秋に警察庁が「自転車は軽車両であり、原則的に車道の左側を走行するもの」と通達を出しましたが、それでも交通事故における自転車事故は増加しています。先進国の中で、自転車が堂々と歩道を走っているのは日本くらいですよ。

**鈴木** そうなんですか! それは知りませんでした。

**森井** ネックはもうひとつありまして、それが自転車レーン整備の遅れです。少しずつ全国の総延長は延びていますが、問題なのは、それらが断続的でつながっていないこと。つまりネットワークになっていないわけです。

**鈴木** ミッシングリンクの状態であると。

**森井** そうなんです。そんな中で宇都宮市、金沢市など自転車レーンをできるだけ切れることなくネットワーク化することに注力している自治体もありますが。

**鈴木** なるほど。

**森井** 私たちの願いは、全国で自転車走行空間のネットワークをもっと拡大していきたいということです。そして、それは

市や町の単位ではなく、県や都、府のレベルで構築していければ理想的です。その意味でも鈴木知事に先頭に立っていただき、三重県内にそうしたネットワークをつくっていただければ良いロールモデルになると思います。

**鈴木** いろいろな仕組みをしっかりと勉強させていただいて、可能な部分は積極的に採用していきたいと思えます。三重県は観光資源が豊富なので、シェアサイクルの潜在的な需要は高い



対談は鈴木氏の東京出張中に時間をいただいて実現したものです。収録は、日本橋にある三重県産の商品が充実している首都圏営業拠点「三重テラス」で行った



はずです。例えば、昨年10月に式年遷宮が行われた伊勢神宮、さらに今年、世界遺産登録10周年の行事が予定されている熊野古道もあり、ますます三重県を訪れる方が増えることが予想されます。これを機会にして自転車普及にも力を注いでいきたいと思います。

**森井** そうですね。まずは観光目的での導入を第一歩として考え、その後、少しずつ地元の方に日常的に利用していただけるように展開できればいいのではないのでしょうか。都市部でも観光目的のシェアサイクルはあるものの、目的の意味合いは地方と少し変わる気がします。例えば交通渋滞の緩和、化石燃料をセーブするため自動車の代替手段として用いる、さらには健康維持などを据えるケースが目立ちますね。これらのスローガンはヨーロッパの都市では、もっと鮮明に打

ち出されています。渋滞緩和、エネルギー対策、健康維持。この3点を行政と市民が明確に共有していますね。

**鈴木** 観光を第一歩としてシェアサイクルを検討し、徐々に定着させていくというアドバイスは大いに参考になりますね。

## 地域活性化に有効 多機能型コインパーキング に関心

**森井** 続いて伺いたかったのが、コンパクトシティについてです。ご存じのとおり、国土交通省が旗振り役となって全国に広めていこうとしている施策です。コンパクトシティの中では、多くの人が集まり、交流できる拠点にもなり得るということで自転車や自動車の駐車場も大きな役割を担うことが期待されていて、本対談の重要なテーマのひとつとなっています。知事はコンパクトシティに対してはどんな感想をもたれていますか。

**鈴木** 少子高齢化が急速に進む中、非常に有効な施策だと考えています。そして、三重県はそれが実現しやすい環境が既に整っていると思うんです。

**森井** どのような理由ですか。

**鈴木** 地理的にいいますと、三重県は南北に細長く、海と山との距離が近くて平野部が小さいのが特徴です。そして、その小さな平野部の中に、中規模の都市が

いくつか分散しています。コンパクトシティ化を進める場合、元のスケールが大きな都市だと実現はしにくいと聞いておりますが、その点、三重県は、最多でも先に申し上げた四日市の約31万人、続いて県庁所在地の津市で約29万人です。さらに、山が多いただけに中山間地域も点在しています。したがって、ある程度コンパクトシティ化がしやすい環境が整っているのではないかとこのわけです。いずれにせよ、基礎自治体の皆さんとしっかり話をしてみたいと思いますね。

**森井** 三重県内の駐車場事情はどうなっていますか。

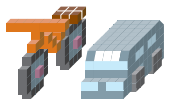
**鈴木** 公共交通網が都市部ほど発達していない地方では、クルマが重要な足となります。三重県も同じでクルマの普及率は高く、1世帯当たりの保有台数は2.01台(平成21年末国土交通省調べ)となっています。東京都では0.7台程度と聞いていますので、3倍近くになりますね。移動手段の90%以上がクルマを使うというデータもあり、駐車場は三重県において非常に大切な施設です。

**森井** なるほど。

**鈴木** 私が知事になってから特に力を入れているのが、一昨年10月から始めた、障がいを持つ方や妊婦さんなどが乗るクルマを優先的に止められる「パーキングパーミット制度」です。三重県では「おもいやり駐車場」と呼んでおります。現



左/昨年10月、式年遷宮が行われた伊勢神宮。多数のクルマ来場者が予想されたため、少し離れた場所の駐車場と伊勢神宮をバスで結ぶパーク&ライドを導入。大きな混乱もなく、試みは成功した(神宮司庁提供)  
上/三重県内に定着している「おもいやり駐車場」



在、全国で31府県が実施していますが、東海3県の中では三重県が初めて導入させていただきました。

**森井** ここまでの実績はどうか。

**鈴木** 制度が導入されてから約1年半の間に、約20,000人に利用証を交付しております。おもしろい駐車場を設けている登録施設は約2,000にのぼっています。この数字は、先行してパーキングパーミットを始めた県を上回って、現在、人口1万人あたりの登録施設数では全国で6位の実績です。ただ、その半面、利用証がないにもかかわらず、おもしろい駐車場に堂々と停めているクルマも散見されますので、いままで以上にマナー、モラル順守の啓発を進める必要があるとも感じています。そうすれば、おもしろい駐車場はもちろん、通常の駐車場を利用する際のマナーアップにも期待できますしね。道路などのハードと同時にドライバーの意識を高く保つための啓蒙、つまりソフ

トの充実も重要だと考えています。

**森井** 市街地で駐車場が不足しているということはないですか。

**鈴木** それは聞いていないですね。例えば商店街で閉店した商店の跡地を、コインパーキングに転用する事例も多いようです。先に申し上げたとおり、クルマは三重県民にとって不可欠な存在ですからコインパーキングをつくるのは大切なのですが、半面、商店が減ったままの状態は商店街としての魅力が削がれるようで忸怩たる思いもあるのですが…。

**森井** それなら平地のコインパーキングの上の空間を利用して、プレハブの空中店舗をつくる手がありますよ。都市部で新しいビジネスモデルとして注目されています。カフェや保育園、シェアオフィスなど多彩な用途があります。

**鈴木** それは面白い。保育園などは特に良いですね。

**森井** 合理的ですよ。クルマで子ども



と一緒に来て駐車し、子どもを上階の保育園に預け、自分はそのまま歩いて駅へ向かって出勤できるわけですから。

**鈴木** 商店街にそうした施設ができれば新たな人の流れが生まれます。その先進事例は勉強する必要がありますね。

**森井** 私がお話したことがお役に立てば幸いです。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。 **PP**

パーキングプレス発行人：プロフィール

**森井 博**

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長 (業界最年長?のため)
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長 (実質設立者の一人のため)
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事 (設立発起人、2020年東京オリンピック・パラリンピックで3万台走らせたい)
- 東京八重洲ライオンズクラブ 会員 (欠席が多く熱心ではない)
- 六本木男性合唱団 団員 (下手の横好き、団長三枝成彰氏の弱者救済精神に共感)
- サイカパーキング (株)、日本駐車場救急サービス (株)、モーリスコーポレーション (株) 夫々代表取締役会長 (夫々創立に関与したため。信条は健康一番、仕事は二番)

**【略歴】** 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市の港町に生れる(小学生になる前から泳げた)75才。  
 1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒(陸上競技部、やり投げ、短距離、インターハイ2回出場)  
 1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒(遠洋航海は当時珍しいハワイ航海)  
 1961~1979年 石川島播磨重工業(現:IHI)(パーキング営業部他)  
 1979~1991年 東芝(エレベーター事業部他)  
 1991年 脱サラ、現職

**【趣味】** ゴルフ(週一、80才までにエージシュートを目指す)、自転車(片山右京氏監修インターマックス車他数台所有するも、あまり乗らない)、自動車(レクサス他数台所有、やはり国産車がベスト。スピードは160km/hr以上は出さない)

**【遍歴】** 野球(中学生までは本気でプロ選手になるつもりであった。元西鉄ライオンズ 故 鉄腕 稲生和久投手、完全試合男 田中勉投手、元巨人 長島一茂の先生 淡河弘捕手は友人。原辰徳監督の父貢氏からはボクサー犬を買った。少年野球コーチ6年間、陸上競技(大学生まで)、テニス(元テニ選手本井満氏のコーチでかなりの腕前になるも、45才時アキレス腱断裂で引退)

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

